

(資料1) 令和2年度 磐田市立青城小学校 学校評価書

重点	目標・取組	評価指標	自己評価	考察・改善策	学校関係者評価委員から
【知】 自分の考えを深め表現する子	考えを深める授業の充実 ・課題を自分ごとにし、考えを導き出す発問の工夫	子どもたちは、課題を自分ごととして学びに向かっていたか。	A	○研修テーマを「自己を見つめ よりよく生きようとする子の育成」とし、道徳の授業を中心に授業改善に取り組んだ。課題が自分ごととなるように、導入や発問を工夫した。また、めあて、まとめや振り返りの充実を意識した授業を行うことで、子どもたちの学びの充実が見られた。 ○新型コロナウイルス感染症予防の観点から、ペアやグループによる学習を控える場があった。対話をさらに充実したり、ホワイトボードやICT機器を使って可視化したりすることによって、学びをさらに深めていけるようにしたい。	○始業式や終業式で発表の場を設けたことは、大きな意義がある。子どもたち全員がめあてや振り返りをもったことがよい取組であった。また、自分の言葉で表現することで、自信につながっている姿があった。子どもたちの成長が感じられる。 ○様々な形のグループ学習が行われている。新型コロナウイルス感染症予防の対策から教育活動を見直したことを、今後もプラスに働かせていってほしい。
	学んだことを自分の力で表現する取組 ・授業のまとめや振り返りの時間の確保	子どもたちは、学んだことを自分の言葉で表現できたか。	B	○自分の考えを表現させることで、自信をもって取り組めるようにしたい。始業式や終業式では、全学級から代表を選び、めあてや振り返りを発表する場を設けた。今後も発表の場を充実させ、子どもたちに自信をもたせたい。	○自主性を育むことは大きな課題である。今後も工夫を凝らすことで成長へとつなげていってほしい。 ○GIGAスクール構想に対して、全職員が一丸となって対応できるようにしてほしい。
【徳】 自分も相手も大切に 進んで行動する子	心と心のキャッチボール ・あいさつ運動の推進 ・つながり週間の活用	子どもたちは、進んであいさつができたか。	B	○職員の働き掛けや委員会活動により、子どもたちの挨拶への意識は高まった。課題として、子どもたちは挨拶をしているつもりでも、周囲には伝わっていないことがある。こうした意識のずれをなくすため、委員会活動のように子ども自身が課題として捉え、改善する活動を大切にしたい。	○防犯パトロールやあいさつ運動で子どもたちの様子を見ると、高学年を中心に気持ちのよい挨拶ができています。特に、目を見て挨拶ができています。挨拶が習慣づけられてきている。 ○子どもたちは、「ほめほめシール」をもらって帰ってくると、とてもうれしそうに報告する。どんな行いでシールをもらったかを聞くことで、親子の会話が充実したものとなっている。今後も続けてほしい。
		子どもたちは、職員とつながりを感じているか。	A		
	自己を見つめ強みを伸ばす取組 ・自己を振り返る時間の充実（もくせいタイム） ・ほめほめチャレンジの実施 ・道徳科や特別活動を核としたカリキュラムマネジメント	子どもたちは、自分を見つめ、自信をもって取り組めたか。	A	○つながり週間は、子ども理解に有効であった。子どもたちは、もっとつながる時間をもちたいと思っている。朝の時間の活用など、さらなる子ども理解に努めたい。 ○ほめほめチャレンジで自己肯定感を高められた。オリジナルシールが効果的であった。また、もくせいタイムも自己を振り返る場として今後も大切にしていきたい。 ○子どもたちの素直さを生かし、自主性を高めたり、自信をもたせたりできる活動を取り入れ、さらなる成長を促したい。	○コロナ禍だからこそ大切にしているものがあることで、互いを思いやる心などが醸成されている。今後、地域とどのように関わり合いをもつか、考えていってほしい。

【体】心と体をきたえ 最後までやりぬく子	強い心と体づくり ・ 体育授業、体育的行事を通してめあてをもたせ、子どもの成長を促す取組 ・ 心の授業の実施	子どもたちは、自分の課題を受け止め、めあてをもって運動できたか。	A	○もくせいタイムやキャリア・パスポートなどを活用し、めあてをもったり、振り返りをしたりすることを大切にしました。個人や集団として目標をもって取り組んだり、過程を大事にしたりすることで、体づくりのみならず、精一杯取り組む達成感や力を合わせることができた。さらに、心の授業、道徳、特別活動等により、レジリエンスを育むことができた。	○コロナ禍の中で、子どもたちの危機管理意識が高まっているように感じる。一方で長期間にわたるマスクの着用で、正しく着用できていない子もいるため、指導していく必要がある。自己管理できるようにしていきたい。また、体力の低下が心配されるが、外遊びを大切にしている安心である。
	健康管理の意識向上 ・ 健康・安全の日を利用した呼び掛け	子どもたちは、自分の心と体に関心を持ち、健康に生活できたか。	A	○健康・安全の日に限らず、手洗いやうがいの励行を常に行い、子どもたちの健康への意識を高めた。 ○様々な要因により、不安を抱えていたり、不安を抱えていることが予想されたりする児童がいる。組織的に対応し、早期の対応を心掛けた。しかし、コロナ禍の中でストレスや不安は子どもたちの中に存在する。つながり週間の充実などにより、子どもたちのさらなる安心を生み出していきたい。	○「しなやかな たくましさ」はとても大切なことである。継続して行ってほしい。 ○コロナ禍で行事等を減らす、なくすではなく、育てたい姿で考えたことがよかった。リレー集会で育んだ自主性のように、集団の中だからこそ学ばせられることがある。今後も集団としての取組を工夫しながら続けてほしい。

学校関係者評価を受けてのまとめ

○コロナ禍の教育のあり方として、「減らす、なくす」ではなく、子どもたちに付けたい力をもとに教育を見直していった本校のあり方を高く評価していただいた。「しなやかな たくましさ」の育成のため、どのような姿が必要なのかを見つめなおし、次年度の教育課程を再編した。今後も目指す姿を明確にし、教育活動に取り組んでいきたい。

○自主性の育成は、今後も継続していきたい課題である。次年度は、「対話タイム」やスピーチの場を設けることで、子どもたちが自信をもつことができるようにしていきたい。

○GIGAスクール構想に対応できるように、「ICTタイム」を設け、全児童及び全職員がICT機器を活用して学びを深めることができるようにしていきたい。

○保護者や地域との関わりをより強くしていきたい。便りやHPについては、充実できるよう継続して取り組んでいく。また、見守りボランティアの方々の協力を得て、挨拶の習慣化に取り組んでいく。地域、家庭、学校が協力し、よりよい教育を行えるようにしていきたい。